

## 幸せな地域とは～居場所づくり・つながりづくりのヒント～ 丁子田シニアクラブ会長 菊池利彦さん

チームA つながり隊 松チャン さっちー さとくん もんきち ユッキー てらし



愛知県職員時代、とりわけ福祉の分野で障がい者や生活保護、高齢者をはじめ、介護保険の立ち上げにも関わったという菊池利彦さん。丁子田に住みはじめて34年。現在は民生委員やシニアクラブの会長を務める菊池さんに、地域の居場所づくりと“つながりづくり”のヒントを伺いました。

きくち としひこ  
**菊池 利彦** さん(写真:丁子田集会所でのそば打ち同好会にて)

### ○働いていたころは隣のオヤジさんと話したことがなかった

ー在職中の頃、地域とのつながりはあったんでしょうか？

まったくなかったですね(笑)当時、役場へは住民票を取りに行くくらいで、酒を飲むのも麻雀するのも小学生の通学も名古屋に越境したりと、長久手に住んでいるという意識はなかったですね。

また、その頃はお隣さんと話をする事なんてなかったし、だれも近所付き合いに関心がなかった。転入して5年後に自治会役員をやりましたけど、地域のために何かできたとは思えない。終わったときにやれやれとは思いましたけどね(笑)

ー人口が増えた市が洞地区ですが、コミュニティづくりについて、菊池さんから見てどう思いますか？

市外の人からは、「いいところに住んでますねー」とよく言われますが、やっぱり横のつながりは少ないと感じますね。30年前の私たちと同じかもしれないので今のコミュニティに違和感を感じませんが、自治会に入っていない人たちがいるなど、コミュニティを中心とした人とのつながりが足りないとは思っていますね。



ー幸せ実感調査、アンケートからも“つながりが大事”という結果が出ています。全く同感ですね。

## ○また、新しい“しがらみ”ができるのかと・・・。

—どのようなキッカケで民生委員やシニアクラブの活動をするようになりましたか？

仕事を退職したことでそれまでの“しがらみ”から開放されたと思いましたが、地域に帰ると「また新しい“しがらみ”ができるのか」という思いもありましたね。

—その“しがらみ”というものはいい意味ですか？

地域に入っていくということが簡単ではないと思ったんです。それで、まず農楽校や市民講座、里山クラブなどに参加したんです。その中で新しいつながりができてきたんですが、そうした中、シニアクラブの担い手がいなくなって、何とか来年以降も継続できないかという話が私にきたんですよ。どうせ誰かがやらないといけないなら私が・・・という思いで引き受けましたね（笑）

## ○やっているときは、不安も多い

—シニアクラブの人集めは大変だと思います。人集めの工夫や大切にされたことはありますか？

まずは情報を伝えることから始めました。せっかくの情報をしまい込めばそれで終わってしまう。翌月の予定をプリントして地域に配る。手間はかかるけど、それが大事だったんです！

もう一つは、活動がみんなのニーズに沿っているか。今は健康志向なのでヨガをやっていますが、興味があれば「次はいつやるの」と聞いてきますね。反対に、自分勝手に進めていくと人はどんどん離れていく。皆さんの意見を聞きながら、やるべきことをやっていくとうまくいきますね。最近は、こちらから誘わなくてもシニアクラブに入りたいと言ってきてくれた方もいるんですよ！



—やるべきことをやるというのは難しいですよね？

そうですね。そば打ちグループの運営にも参加していますが、「みんな来てくれるかな」とか「楽しんでいるかな」とか、とにかく不安ばかりで、自分が楽しむ余裕はないですね。



## ○つながりの秘訣は「無理強いをしない」

—ニーズに沿った企画を考えるなど、参加しやすい雰囲気づくりを意識しているのでしょうか？

まさに、そこだと思うんですよ。「今度これやるからぜひ参加してよ」など“無理強い”はしない。参加できなくても、「いつでもいいから参加して」とか「興味があったら参加して」と声をかけるようにしています。

一人を集めよう、集めようと思って誘うと、参加する側は構えちゃいますよね。

そうですね。あと、役が回ってくると思うとやりたくなくなっちゃう。そのあたりも無理強いはしないようにしています。

一地域の居場所づくりで大切にしている思いはありますか？

私自身も居場所づくりには苦労しましたからね（笑）でも、みんなそれぞれの生活がありますから、地域の活動に今日も出てきて明日も出てきて・・・とやっているのと会の運営に無理が出てきてしまうと思うんですよね。今日の参加は少なくてもいい、また次に参加してもらえれば、と自然に参加してもらいたいですね。

## ○地域のつながりをつくるのに遅いということはない

一地域の活動に参加していてよかったなあと感じることはありますか？

あまり感じることはないですね。自分に余裕がないので（笑）ただ、活動を肯定してもらえるとうれしい。例えばそば打ちをやった時に「おいしかったよ！」とか「今日は楽しかったよ！」と言ってもらえるとよかったなあと思いますね。後からじわじわと感じてくるんですかね。



一菊池さんはどのような面で地域とのつながりが必要だと思いますか？

最近では高齢者の孤立死が問題となっていますが、特に“定年退職後の男性”の地域とのつながりを意識しています。在職中に少しでも地域とのつながりがあると楽ですが、それは退職後でも決して遅くはないと思います。ただ、自ら参加するような地域になるのが理想ではないかなと。



一引き込むというより背中を押すという意識ですね。一緒にやろうよという。

そうですね。退職したばかりは職場のしがらみから解放され、少し時間が必要かもしれませんが、地域で新しい人間関係を作っていかなければならないときに、誰かがちょっと背中を押す、地域とのかかわりをつくる一歩になればいいと思っていますね。

## ○あえて言うなら、幸せは人との関係や地域とのつながりなのでは・・・

—最後に、菊池さんにとって“地域の幸せ”とはどういったものでしょうか。

厳密な意味で“地域の幸せ”があると思えないですね。幸せは個人個人が持つものだと思いますが、自分だけが幸せで周りにはどん底というのはあり得ない。物が充足した世の中で、人は何で幸せを感じるか考えたとき、“人と人との関係”、親子や兄弟、そして“地域のつながり”が幸せにつながるのではないのでしょうか。

### 編集後記

元愛知県職員、そして退職後も精力的に活動しているという事前情報から、ぐいぐい牽引する地域のリーダーを想像していましたが、「不安ばかり」と話す菊池さんに親近感が湧きました。

最近では、声を交わすこともなかった隣のオヤジさんと一杯飲みに行ったり、奥さん同士も旦那の愚痴を言い合う関係になっていると聞き、何気ない理想の地域のつながりを垣間見ることができました。



### 情報コーナー

#### Q. シニアクラブって？

A. 60歳以上の方が任意で加入し、シニアの方の居場所を提供しています。ご近所さん同士で顔を合わせて身体を動かしたりお話したりすることができます。

#### Q. 丁子田シニアクラブ、気になるなあ…

A. 菊池さんらのがんばりにより、現在は約90名の方が加入し、集会所などでさまざまな活動を行っています。例えば、そば打ち同好会やヨガ体験、麻雀などです。気が向いたとき、ちょっと時間があるときなどに気軽に参加してみましよう！